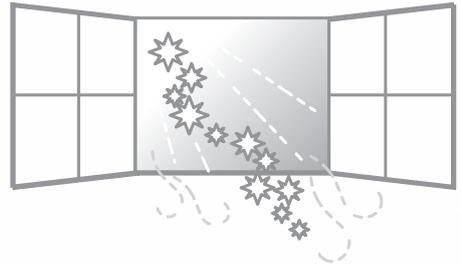


優先席と人権の文化

人権の窓を開けて、優しい陽の光と、さわやかな風を感じてください



新

聞の投書欄で「電車の優先席を、不必要な人が独占しているのを見て、不快に感じた」という投書を時折、見かけることがあります。「若者が」とよく言われますが、若者に限らず、壮年・男・女を問わず、時には子どもも含めてそんな状況を見ることはありません。優先席がなんのためにあるのかわからない人はまずいけません。優先席でなくとも譲り合う姿を見ることが、もちろんあります。が、残念ながら投書のような事態が多いことも、また事実です。

日本では優先席が設置してありますが、欧米ではそのような席は無いそうです。老人や妊婦さんなど、必要な人に席を譲るのがあたりまえ、という習慣があるからです。優先席は、困っている人を目に向け、人の心を育てる一つの手段で、思いやりや人を大切にする心がみんなに育ったとき不要になるものです。例えば、朝、起きて、顔を洗って、歯磨きをしないと気持ちが悪いです。お正月にはおも

を食べて、みんなで祝うなど、これらは生活に根付いている習慣であり、言い換えれば文化といえるでしょう。人権についても大切にするのが当たり前、優先席がなくなると譲り合うことが当たり前となったとき、人権尊重が文化として根付いたといえると思います。

「三つ子の魂、百まで」ということわざがありますが、子どもが幼い頃から、心が真っ白の時から、親が、大人が人権の大切さを、機に応じ、身をもって示し、教えてこそ、生き方として身につくものです。人権文化の継承と発展をゆだねられる子どもたちを、共に育てたいと思います。

(八木小学校 校長 松本 貞和)



工作 小寺 慧弥さん(3年)



習字 小寺 彩乃さん(5年)



絵画 山内 麻凜さん(1年)



愛鳥週間ポスター 山内 勇治さん(4年)



習字 村下 柚佳さん(6年)



絵画 片野 和さん(2年)

なんたんミュージアム 4
—南丹市立摩気小学校—